

校名：信州大学教育学部附属松本小学校

所在地：〒390-0871

電話番号：0263-37-2216

記載日：28年5月16日

記載者：宮下 昭夫

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

<育てたい子どもの姿>

- 活気ある子ども…発すべき時に自ら発していく姿
- 集中する子ども…集中すべき時は一心に集中する姿
- 仲のよい子ども…「わが仲間」として睦み合い、共生を目指す姿

～感動体験を土台に、確かな学力と清らかな人間性を育てています。～

キーワード：「感動」…意欲の喚起・表現力の育成を図ります。

「社会的な知性」…児童のよさと可能性の伸長を図ります。

「清らかな人間性」…温かく澄んだ感性を磨きます。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 特に追跡調査をするようなことはしていません。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 特に追跡調査をするようなことはしていません。
- ③ 公立学校に於いては、研究主任、教務主任など、学校のみドルリーダーとして中核的な役割を担ったり、教頭、校長などの管理職に就いて、学校を経営する立場に就いたりしている。また、教育委員会における、指導主事や主幹指導主事などに就き、各学校の授業指導や管理指導に当たっている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

<附属学校園ラウンドテーブル>

公開研究会と隔年で、教師自身の在りようを考え合う場を提供します。

1 ねらい

知識基盤社会を生きていく子どもたちと暮らす教師である我々自身が、学び続けることが求められています。私たちが、日々の実践や子どもたちとの営みについて語り合い、傾聴し合うことで、同僚性を築き、「教師としての私」への問いを深め、省察する実践者を目指したいと

考えます。

私たちが追い求めるべきは、単に目に見える指導法・教授法のスキルアップではなく、それを支える目に見えない自己の子ども観、指導観を問いつづけること、絶えることのない自己の在り方の再構築であります。一人の人間・「教師としての私」は、各々がもっている経験の上にのみ存在しているのであり、その自己の経験の編み直しでしか「私」の変容はありえません。また、そうした先に、目に見える指導法が意味づけられるのだと思います。お互いの経験を語り合う中で、お互いの「観」を刺激し合える会にしたいと考えます。

2 日程（平成28年度案）

(1) 日時 平成28年10月15日（土）

(2) 場所 メイン会場：附属松本小学校（サブ：附属幼稚園，附属松本小学校）

(3) 内容・日程

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| ① 中学校授業公開（自由参観） | 9：00～ 9：50 |
| ② 中学校 語る会 | 9：50～10：20 |
| ③ 移動 | 10：20～10：45 |
| ④ 幼・小授業公開（自由参観） | 10：45～11：30 |
| ⑤ 幼・小 語る会 | 11：30～12：00 |
| ⑥ 昼食 | 12：00～13：00 |
| ⑦ ラウンドテーブルと講演会（松木健一先生） | 13：00～16：40 |
| （発表者3人＋聴き手，一人60分×3＝180分＋講演40分＝3時間40分） | |
| ⑧ 解散 | 16：50 |

<公開研究会及び学びのワークショップ>

本校の実践を広く公開する公開研究会（隔年）に加え、平素の授業、特に指導者の派遣を要請する全校研究授業を「学びのワークショップ」として、市内小学校に公開しています。なお、公開研究会やラウンドテーブルなどの研修は、長野県教育委員会で指定されている「初任者研修」「経年研修」などに当てられています。

<教員免許講習講座開設に係る公開>

信州大学教育学部で開設する教員免許講習の講座の一つに、本校の公開研究授業参観、研究会参加、演習の実施が当てられています。現在40程度の受講者を受け入れています。

<文部科学省指定研究開発学校に係る公開>（平成28年度～平成31年度）

文部科学省指定の研究開発学校として、幼小中12年間の連続的な学びを考える、幼小中一貫教育を目指しています。その中で、校種を越えた連携のあり方や一貫教育のあり方を提案します。

1 幼小中一貫教育で目指す学び

○学びの統合化を目指します

幼稚園⇒遊びの学び化…遊びによる学びの醸成→学びの3類型の導入

小学校⇒学びの教科化…学びから教科の発生を顕在化→融合4領域の新設

教科としての小中接続を保証→教科学習の強化

中学校⇒教科の総合化…実生活における、教科学習の総合的な活用力を育成

2 教科・領域の構成と系列（案）

中学校		国語	英語	数学	理科	技術	社会	家庭	保健 体育	音楽	美術	道徳
小学校	高学年	国語	英語	算数	理科	技術	社会	家庭	体育	音楽	図画 工作	道徳
	低学年	言葉		科学		暮らし		表現		道徳		
幼稚園		ことば		せいかつ				いのち				

遊びの類型／学びの領域／教科等の関係（点線の区分は暫定的なものです）

<教職大学院>

平成28年度より信州大学に教職大学院が設置されました。本校では以下のような大学院の特色を活用して、教師の在りようや授業実践を考え合う場を提供しています。本校での研修が、他の拠点校などに生かされることを期待しています。

○ 教職大学院の特色

1 「教職基板コース」「高度教職開発コース」の設置

（1）教職基板コース

新しい時代に対応できる新人教員育成を目指すコース。高度教職開発コースの院生と友に共同で問題解決を図る演習に参加する。

（2）高度教職開発コース

学校改革・授業改善の中核を担う教員養成を目指すコース。学校現場における実践的課題に焦点を当て、その課題解決のために他の院生や勤務校の教職員からなるチームで取り組む演習を中心に据えて研修する。

2 学校拠点方式の採用

学校現場をフィールドとし、実習を中核としながら具体状況に応じた指導のあり方や実践の省察を深化させることを重視する方式をとる。大学における講義・演習に加えて、フィールドワークや拠点校における実習及びチーム演習を実施する。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○全人的な教育の期待できる場として

現在、本校は松本市内を中心に広範囲から児童を受け入れています。本校を希望する理由を聞くと「主体的であり、伸び伸びとした教育が期待できる」「友だちとの関わりや学び合いの充実が期待できる」などの声を聴きます。本校の教育の在りようが、これらの学びを期待する地域の人々の願いを実現する場となっています。

○域内各校における研修の場として

上記にある「学びのワークショップ」の通り、域内学校に於いて、公開研究会だけでなく日常的に研修することができる学校として位置付けています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○30年、40年先の社会を生き抜く子ども（人）の育成 ～未来を拓く子どもの育成～

本校では、第6期中央教育審議会にて提唱された「自立」「共生」「協働」的な学びを大切に日々実践を重ねています。近い将来、今在る多くの職種が消滅したり、多様な人種、文化の中で生活したりする社会が想像される。そういった社会の中で生き抜く力を育むため、教師や大人がルールを敷いた中で効率よく歩いて行く学習から脱却し、子ども自らが「ひとものこと」と関わり、願いや課題を抱き、その実現や解決に向かう学びを大切にしています。また、学習の形態は、体験的な学び、そして目的を共にする活動や話し合い活動等協働的な学びを日常化しています。これらの学びの中で、高校入試や大学入試などの近い将来を目的としない30年、40年先の社会の中で、自ら課題に立ち向かったり、地域社会に生きる人たちと関わり合ったり、社会に生きる喜びを実感できたりするような人の育成を考えています。

○幼小中一貫教育を目指して

上記に示した、研究開発校指定にある通り、本校では幼小中12年間を見越した一貫教育の実現を目指しています。幸い3校園は同じ敷地内に併設されており、この指定を機に、カリキュラムまでを再編し、12年間を通して未来を拓く子ども（人）の育成を考えています。またカリキュラムの中では「学びの総合化」を考え、国語、算数など既存の教科学習の充実やICT教育を中心に考える小学校技術科、低学年における融合4領域の新設、また、それらを統合する人間力の育成を考えています。本校では、この幼小中一貫教育の在りようを県下各地、そして全国に向けて発信していきます。

○未来を拓く子どもの育成を支える教員の養成

本校では各学級共に、年間10～15名程度の教育実習生を受け入れています。この実習において、子どもたちが歩むであろう社会を考えたり、その社会を生き抜くための教育の必要性を考え合ったりしています。実習を通して「子どもの思いを見つめ、子どもから発する学び」「子どもから発した学びを支える教師の在りよう」などを考え合い、実践に生かそうとしています。本校で学んだ実習生が、県下各地や長野県を越えた学校現場で活躍しています。

○長野県教育をリードする人材の育成

上記の通り、本校で研修を重ねた教員が、学校のみドルリーダーや管理職に就いて、学校をリードしたり、教育委員会において、各学校の授業指導や管理指導に当たったりしています。